

# 『漫画いしづみ』 日本漫画家協会賞大賞〈萬画部門〉受賞

このたび、広島テレビ放送株式会社（本社：広島市東区、代表取締役社長：今村司）が企画した『漫画いしづみ～原爆が落ちてくるとき、ぼくらは空を見ていた』が、第55回日本漫画家協会賞において大賞〈萬画部門〉を受賞しました。本賞は日本漫画界を代表する権威ある賞であり、本作は「広島と言えば原爆を思い出す。あの日、大勢の人が亡くなった。その中に広島の中学生、一人一人の死を克明に描いている」と高く評価されました。

## 【日本漫画家協会賞とは】

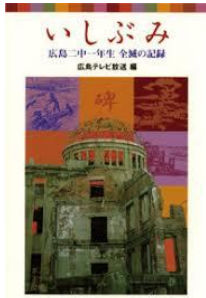
日本漫画家協会賞は1972年に創設されました。現役漫画家を中心とした選考委員により年間を通じて最も優れた作品が選出されます。2023年には、従来の〈コミック部門〉〈カーตูน部門〉に加え〈萬画部門〉が新設されました。「萬画」とは石ノ森章太郎氏が提唱した概念で、既存の漫画ジャンルにとらわれない、新たな表現領域をもつ作品が対象です。過去、第53回の萬画部門は「ちいかわなんか小さくてかわいいやつ」が大賞を受賞するなど、漫画界を代表する賞です。

## 【『いしづみ』とは】

1945年8月6日の原爆で犠牲となった広島二中一年生321名の記録を原点とし、半世紀以上にわたり継承されてきた作品群です。1969年、女優・杉村春子の朗読で放送したテレビ番組『碑』は国内外で高い評価を受け、文化庁芸術祭優秀賞などを受賞。翌1970年には書籍化され、教科書にも掲載されるロングセラーとなりました。被爆70年の2015年には綾瀬はるか、池上彰、是枝裕和らによるリメイク番組と映画を制作し、改訂版・英語版書籍も刊行。そして2025年、被爆80年の節目に漫画化。映像・書籍に続く新たな表現として、次世代へ記憶を伝えています。



1969年『碑』放送



1970年 書籍化



2015年 リメイク版放送



2025年 漫画化

## 【漫画いしづみについて】

原作『いしづみ』（広島テレビ放送編）をもとに漫画家サメマチオが描いた本作は、証言と記録に基づき、広島二中一年生一人ひとりの生と死を丁寧に描いた作品です。

- ◆原作：広島テレビ放送編『いしづみ』
- ◆漫画：サメマチオ（第一回ネクストF大賞受賞）
- ◆解説：池上彰 帯：齋藤孝、是枝裕和
- ◆発売：2025年7月16日（ポプラ社）
- ◆仕様：A5判／224ページ／定価1,500円（税別）

刊行後、新聞・雑誌・オンラインなど多くのメディアで取り上げられ、発売4か月で第四刷に。さらに広島市内の小中高校への寄贈も進むなど、大きな反響を呼んでいます。

## 【サメマチオさんコメント】

『漫画いしづみ』の執筆依頼を受けた当初から今に至るまで、自分がこの仕事に相応しい作家なのか、ボンヤリ答えきれない迷いがありました。しかし、読み継がれるための新たな表現媒体を模索したいという企画意図を伺い、お役に立てる技術があるならとお引き受けしました。

作中の文章はすべてご遺族への取材に基づいています。50年以上前の記録であるため、原作では古く読みづらい箇所もありますが、決して意訳や改編はしないと私自身に課して取り組みました。試みがどこまで達成されたか不安なところ、このような大賞を頂き心底ほっとしております。

制作にあたっては、多くの方々のご指導とご協力をいただきました。本作は、その積み重ねの上に成り立っています。漫画版は読みやすさを重視していますが、原作にはさらに多くの証言や想いが込められています。この機会に原作を読んでくださることを願っています。

## 【受賞の意義と今後の展開】

被爆者の高齢化が進み、直接の証言を聞ける機会は急速に失われています。その中で、過去に蓄積された記録を「誰もが理解できる形」に更新し、未来へつなぐことはとても重要な課題です。本作が漫画分野においても高い評価を受けたことで、被爆地のメディアとしての活動が改めて社会的に認められる形となりました。今後も「いしづみ」プロジェクトを通して、次世代に向けた被爆の記憶継承と文化的発信に取り組んでまいります。

## 【本件に関するお問い合わせ】

広島テレビ放送株式会社 編成戦略部（山本・長野）

TEL：082-207-0408（平日10:00～18:00） MAIL：senden@htv.jp